



平成 31 年度
「岡山市就学前親子の居場所」
に関する調査報告書（概要）



令和 2 年 2 月

NPO 法人岡山市子どもセンター
岡山市地域子育て支援課

I. 調査の概要

1. 調査目的

親子が安全・安心に過ごすことのできる岡山市の「就学前親子の居場所」のあり方を検討するために、「就学前親子の居場所に関するアンケート調査」を実施し、就学前の子どもを持つ保護者の子育て状況やニーズを明らかにする。

2. 調査方法

1) 調査対象と期間

調査対象は、2019（令和元）年5月24日現在の岡山市住民基本台帳から、0歳から5歳までの子どもがいる2,520世帯を無作為抽出した。なお、年齢の違いによるニーズの違い等で回答が偏らないように、各年齢420世帯ずつ抽出した。調査は、同年6月7日～6月30日に郵送調査法により実施した。1,275人から回答が得られた。有効回答率は50.6%であった。

2) 調査内容

就学前親子の居場所ニーズ等に関する質問紙調査票を作成した。調査項目は、属性（続柄、年齢など）、家族（世帯形態、人数など）、子どもの就園状況、居住状況（地区、居住形態、年数）、就労状況、家計状況、家族の健康状態、子育てサポート状況、気がかりなこと・心配ごと（子育て不安を含む）、就学前親子の居場所のニーズ、体罰等の意識と経験、子どもの生活状況、岡山市の就学前親子の居場所の認知・利用・希望、親子の居場所に関する希望や意見についての自由記述などであった（資料のアンケート調査用紙を参照のこと）。

3) 分析方法

各調査項目の集計を行うとともに、就園状況（就園・未就園）によって違いがあるか検討するために、「就園児」「未就園児」に分けて集計を行った。「就園児」と「未就園児」の違い（差）が統計的に意味のある差なのかを検定するためにMann-WhitneyのU検定（以後、U検定と略す）を行った。なお、検定を行うにあたっては、無回答は除いたので、基礎集計の数値と異なる場合がある。統計処理は、計算ソフトIBM SPSS Statistics Ver.23を用いた。また、就学前親子の居場所に関する自由記述（就学前親子の居場所に関する希望、就学前親子の居場所に関する意見）については、計量的テキスト分析ソフトであるKH Coder(Ver. 3)^{注2)}を用いてテキストマイニング^{注3)}を行った。形態素解析^{注4)}により各語句の出現回数を抽出するとともに、共起ネットワーク^{注5)}分析によって語と語のつながりの強さも確認した。

なお、「幼稚園」、「保育園」、「認定こども園」、「その他の園・施設に通っている」を「就園児」とし、「園や施設には通っていない」を「未就園児」とした。ただし、アンケート対象の子どもが「就園児」であり、かつ保護者が「産休・育休中」の場合（対象児以外に産休・育休に該当する未就園児がいると考える）は、保護者のニーズとしては未就園児を持つ保護者のそれに近いと考えるため、「未就園児」に計上した。経済状況については、「黒字であり毎月貯金をしている」を「余裕あり」、「黒字ではあるが貯金はしていない」と「黒字でも赤字でもなくぎりぎりである」を「普通」、「赤字であり貯金をとりにくくしている」と「赤字であり借金をしている」を「苦しい」という3カテゴリーにした。

注2) KH coder とは、立命館大学の樋口耕一氏が開発したテキストデータを統計的に分析するためのフリーソフトウェアのことである。本調査では、KH coder (ver. 3) を使用した。

注3) テキストマイニングとは、自由記述などのテキストデータを単語（名詞、動詞、形容詞等）に分割し、どのような単語が、どれくらい出現して、それらの相関関係や時系列での変化がどのようになっているかを客観的に分析すること。

注4) 形態素解析とは、テキストデータを単語単位に分割を行い、単語の品詞の種類や活用形の種類ごとに分けること。

例：「庭には二羽ニワトリがいる」という文章を形態素解析してみると次のように分割できる。

「庭（名詞）/に（助詞）/は（助詞）/二（数詞）/羽（助数詞）/ニワトリ（名詞）/が（助詞）/いる（動詞）」

注5) 共起ネットワークとは、テキストデータ内にどのような語が多く出てきて、ある語と他の語と一緒に出現する関係（共起関係）を円と線で示した図のこと。語の出現頻度や語と語の結びつきの度合いに応じて、円の大きさや色あるいは円を結ぶ線の大きさによって表わされる。

4) 倫理的配慮

アンケート調査用紙に、アンケート調査の目的、無記名であること、調査結果は統計的に処理されるので個人が特定されることはないことを明記した。アンケート調査への回答は任意であり、アンケートの回答をもって同意を得たものと判断した。

II. 調査の結果

1. 回答者の属性

回答者は91.5%が母親であった。親の平均年齢は34.8歳、子どもの平均月年齢は36.4ヶ月、きょうだいの人数は2.0人であった。子どもの出生順位は第1子が51.5%、第2子以上が48.3%であった。就園状況については、就園児が64.7%、未就園児が35.3%であった(図1-1)。家族形態は核家族86.4%、三世代家族8.0%、ひとり親世帯3.9%、無回答1.7%であった。居住形態は集合住宅40.2%、一戸建て59.4%であったが、集合住宅については、就園児の34.5%に比べて、未就園児は50.4%と有意に多くなっていた。居住年数は3年未満が40.8%、3年以上が59.1%であった。回答者（主に母親）の就労状況については、常勤勤務31.1%、就労をしていない者30.7%、非常勤勤務18.4%、産休・育休中13.4%であった。また、就労をしていない者については、就園児の22.3%に比べて、未就園児は46.0%と有意に多くなっていた。経済状況については、「余裕あり」42.8%、「普通」44.3%、「苦しい」12.0%であった(図1-2)。

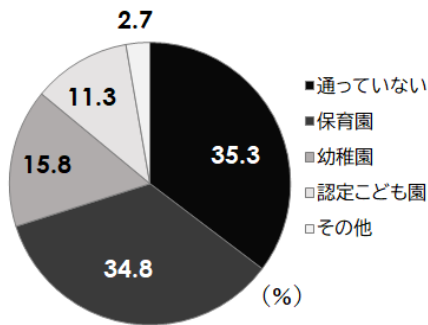


図1-1 就園状況

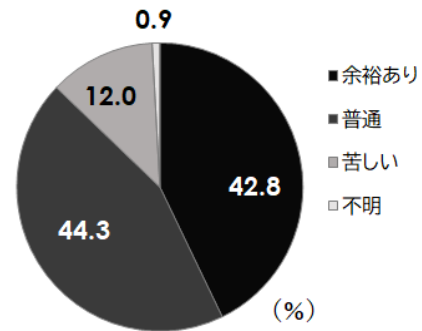


図1-2 経済状況

2. 家族の健康状況

家族の健康状態について健康であると答えた人は、回答者（主に母親）96.5%、子ども98.0%、他の子ども（きょうだい）81.6%（該当無は除く）、配偶者95.8%であった（該当無は除く）。

なお、障がい認定を受けている人は、回答者12人（1.3%）、子ども27人（3.0%）、他の子ども（きょうだい）26人（4.3%）、配偶者10人（1.2%）であった（無回答や該当無は除く）。特に障害の認定を受けている就園児は23人（4.1%）であり、未就園児の4人（1.2%）と比べると有意に多くなっていた。

3. 子育てサポート

1) 子育てについての知識・情報

子育てに関するサポートの知識や情報を得る方法は、図3-1からわかるように71.7%が携帯等から、66.4%が自分の父母から知識・情報を得ており、特に未就園児が就園児に比べて多くなっていた。また、就園児については幼稚園・保育所等から知識や情報を多く得ていた。児童館や専門機関（保健所等）から知識・情報を得ることは少なかったが、未就園児は就園児に比べると多くの情報を得ていることがわかった。

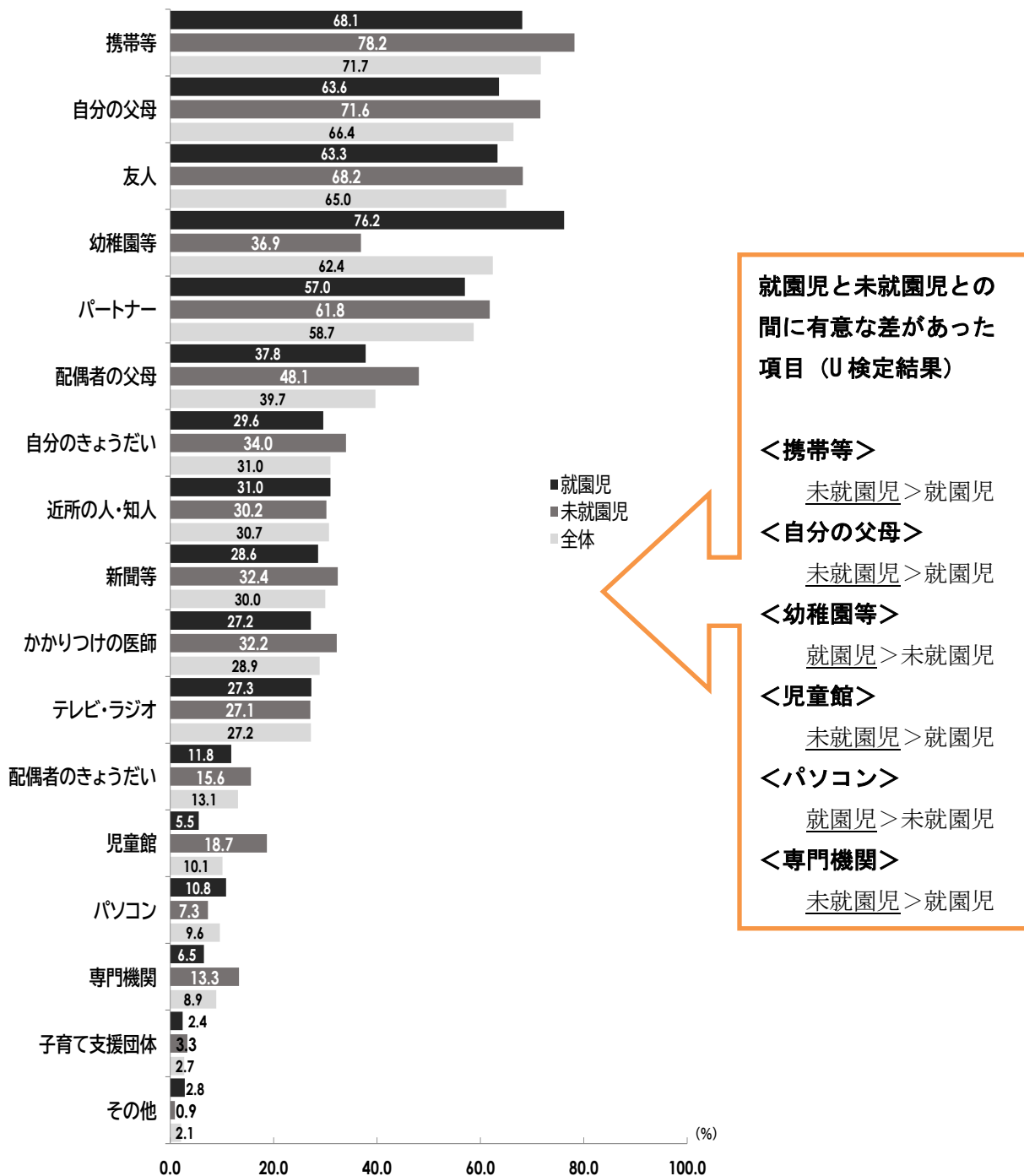


図3-1 子育てサポートの知識・情報 (複数回答)

2) 子育てをサポートしてくれる人

相談相手については、相談をすることが「よくある」と答えた人は、全体では、パートナーが62.4%、自分の父母が44.4%と多くなっていた。手伝いについては、パートナーが69.1%、幼稚園、保育園、子育て支援センターなどの先生・職員が46.2%と多くなっていた。理解(子育ての大変さを分かってくれる)については、自分の父母が68.6%、パートナーが61.8%、友人・知人が59.0%、そして先生・職員が50.8%と多くなっていた。就園状況別にみると以下の図ようになる。ただし、無回答の人を除いた割合を示している。

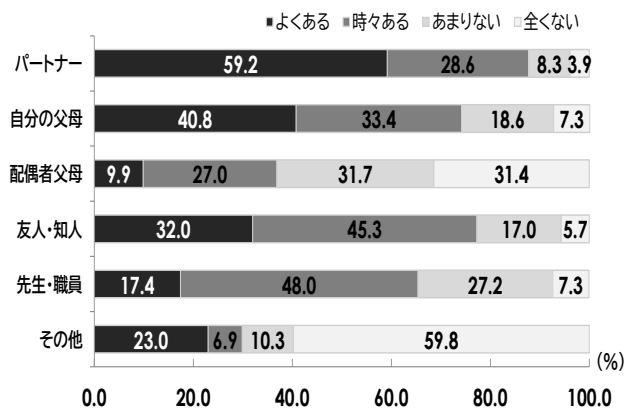


図3-2-1-1 相談相手(就園児)

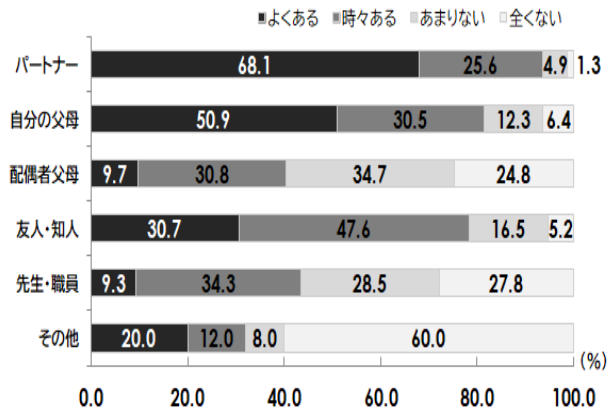


図3-2-1-2 相談相手(未就園児)

<1. 相談> パートナー：未就園児>就園児
先生・職員：就園児>未就園児

自分の父母：未就園児>就園児
(U 検定結果)

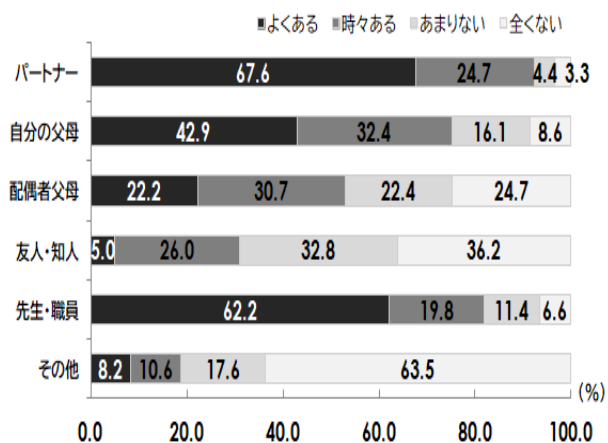


図3-2-2-1 手伝い(就園児)

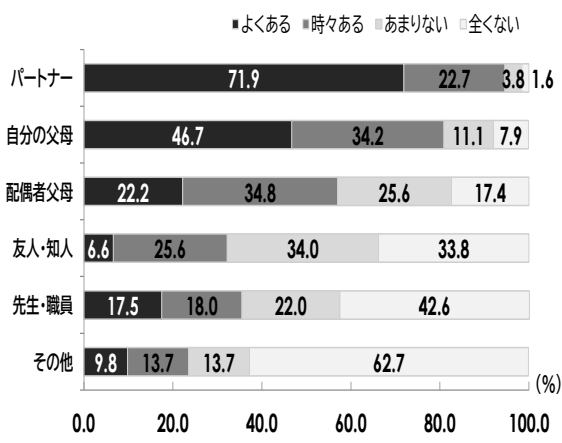


図3-2-2-2 手伝い(未就園児)

<2. 手伝い> 先生・職員：就園>未就園児

(U 検定結果)

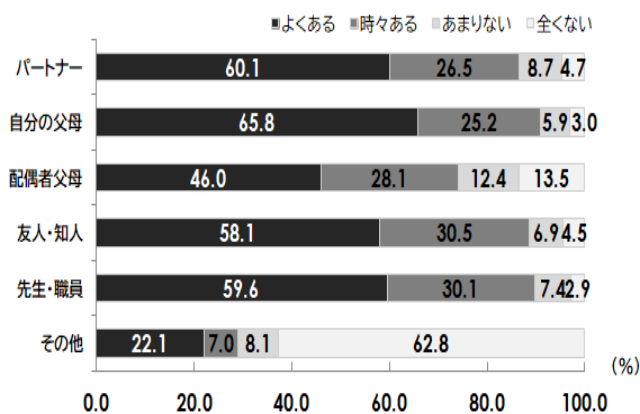


図3-2-3-1 理解(就園児)

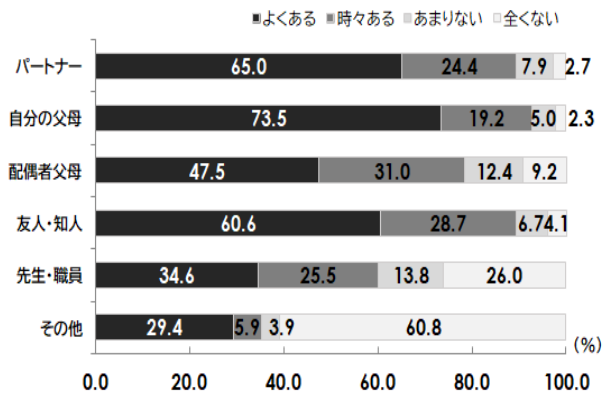


図3-2-3-2 理解(未就園児)

<3. 理解> 自分の父母：未就園児>就園児

先生・職員：就園児>未就園児 (U 検定結果)

4. 気がかりなこと・心配ごとについて

1) 気がかりなこと・心配なこと

図4-1は気がかりなこと・心配ごとを示したものである。

気がかり・心配ごとについては、他の子どもとの関係（27.7%）や、教育・習い事（27.6%）が多くなっていたが、特に教育・習いごとについては、就園児が30.3%と未就園児の22.7%に比べて有意に多くなっていた。未就園児の食事など（29.1%）や排泄など（28.4%）は、就園児に比べて多くなっていた。情緒発達については、就園児が22.5%と未就園児の13.8%に比べて多くなっていたが、からだの成長については、未就園児が20.7%と就園児の14.2%に比べて多くなっていた。また、運動機能は全体では8.5%と少なかったが、就園児の方が9.7%と未就園児の6.4%と比べると多くなっていた。

以上のように気がかりなことや心配ごとは就園状況によって違いが見られた。

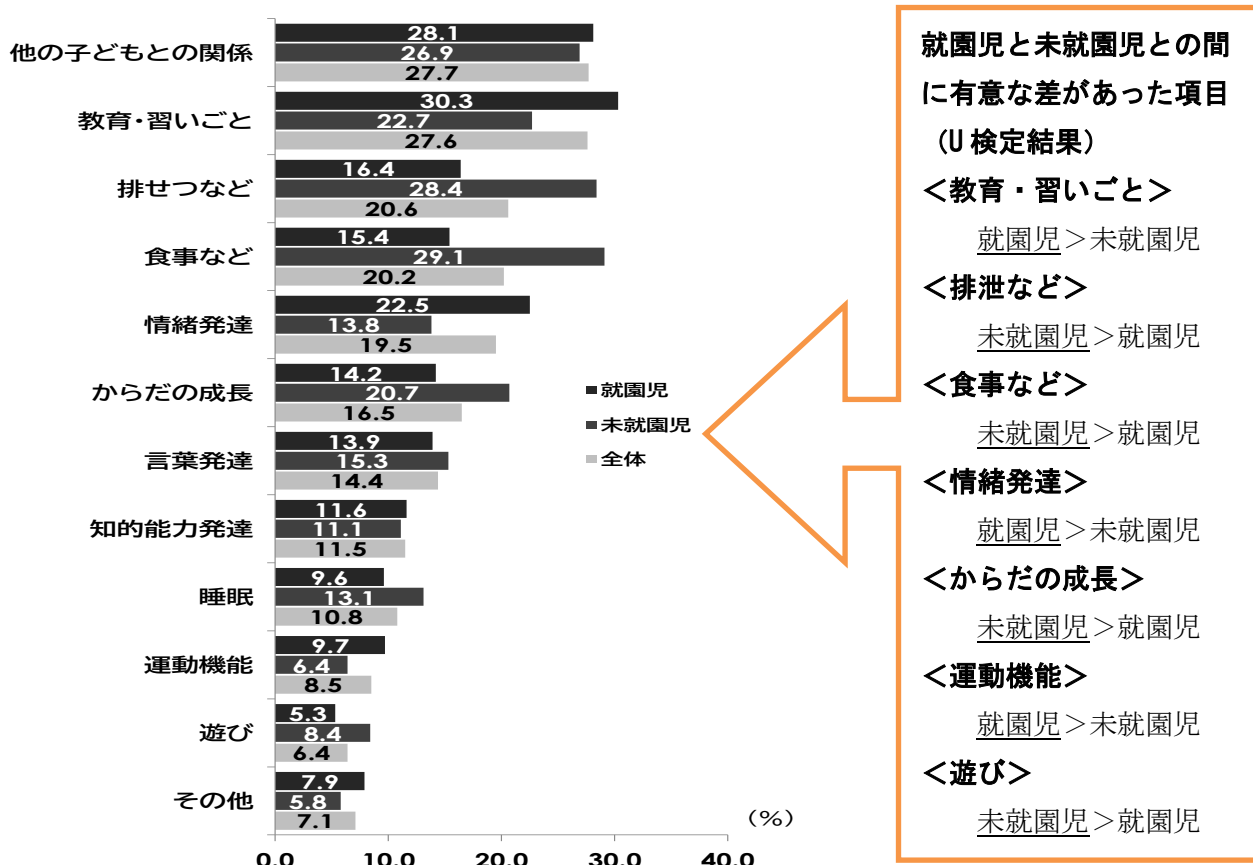


図4-1 気がかりなこと・心配ごと（複数回答）

2) 子育て不安など

子育て不安などについて全体で「よくある」と答えた人が多かったのは、「子どもをおいた外出心配」（42.0%）、育児、家事、仕事の「両立困難」（22.0%）、「毎日同じことの繰り返し」（18.8%）であった。就園状況別にみると以下の図のようになる。未就園児の方が高くなっていたのは、「子どもをおいた外出心配」「毎日同じことの繰り返し」「眠れない」であった。就園児の方が未就園児より子育て不安が高かったのは、「ゆとりがない」「考えごとがおっくう」「イライラ」であった。

なお、次の項目については他の項目と合わせるために、統計的な調整を行った。「1. 朝、目覚めがさわやかである」「3. 生活の中にゆとりを感じる」「5. 自分は子どもをうまく育てていると思う」「13. リラ

ックスできる時間がある」「14. 自分が楽しめることをしている」の 5 項目については、「目覚めがよくない」「ゆとりがない」「うまく育てていない」「リラックスしていない」「楽しいことをしていない」と示した。

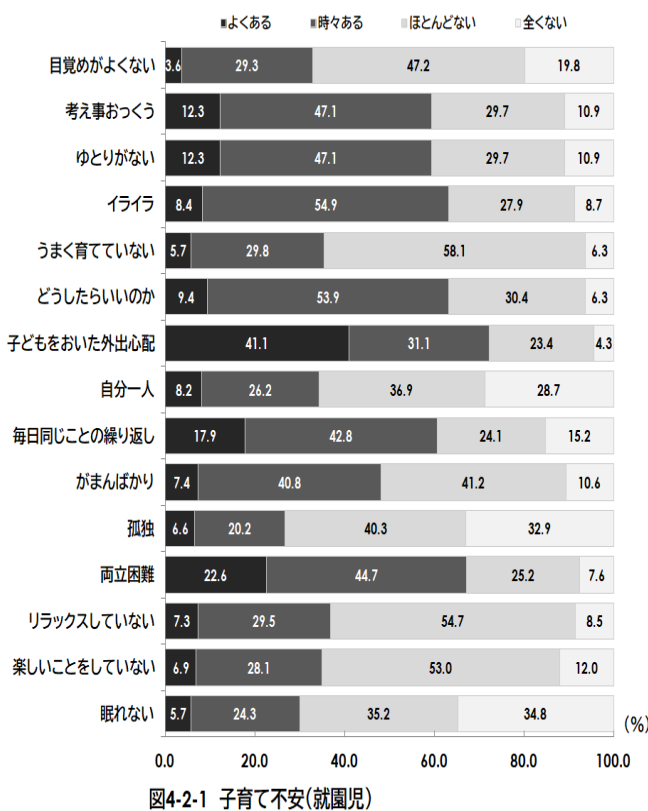


図4-2-1 子育て不安(就園児)

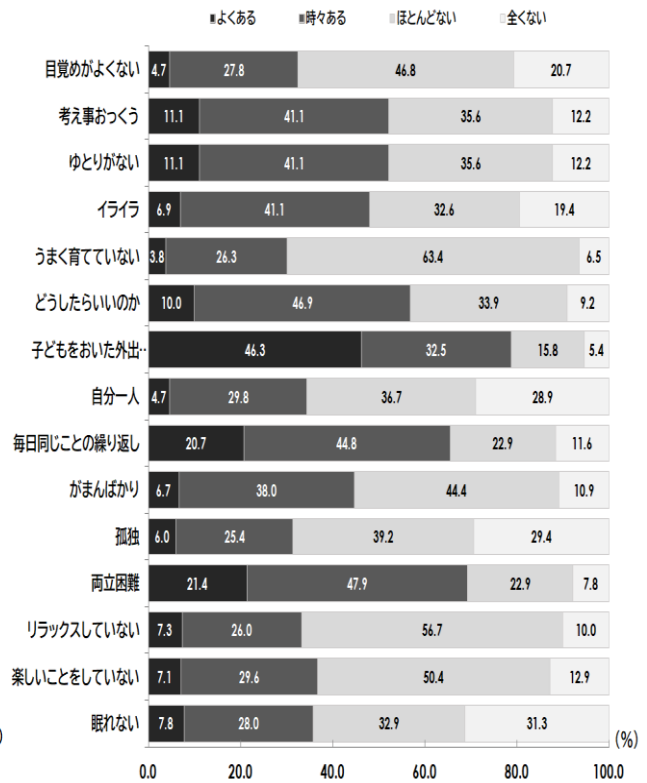


図4-2-2 子育て不安(未就園児)

就園児 > 未就園児の項目：ゆとりがない、考え事がおっくう、イライラ

未就園児 > 就園児の項目：子どもをおいた外出心配、毎日同じことの繰り返し、眠れない

(U 検定結果)

3) 子育て不安を構成する因子

15 項目の子育て不安を分類するために因子分析を行った結果、次の 3 つの側面 (因子) に分類することができた。ただし、「子どもをおいた外出心配」と「眠れない」の 2 つの項目は、この分類には含まれなかった。独自の子育て不安として捉えておく必要がある。

孤立感 (第 1 因子)

「孤独を感じる」「がまんばかりしている」
「自分一人で子育て」「毎日同じことの繰り返し」
「両立困難」

ストレス感 (第 2 因子)

「ゆとりがない」「リラックスできる時間がない」
「自分が楽しめることをしていない」「目覚めがよくない」

困難感 (第 3 因子)

「どうしたらよいかわからない」「うまく育て
ができていない」「イライラする」
「考えごとがおっくう」

5. 就学前の親子の居場所ニーズ

1) 就学前の親子の居場所ニーズ

就学前の親子の居場所ニーズである 24 の項目について、図 5-1 は就園児、図 5-2 は未就園児を示している。遊び体験（家ではできない遊びや新しい遊びの体験ができる）のニーズが全体 84.7%、就園児 83.1%、未就園児 87.6%と多くなっていた（無回答を除く）。体を動かして遊ぶスペースがあること、子どもが遊びやすいように環境設定されていることのニーズも多く、さらにいつでも気軽に立ち寄れる場所のニーズも多くなっていた。就園児と未就園児を比べると、遊び体験（87.6%）、遊ぶスペース（85.4%）、子どもと一緒に遊ぶ（73.3%）、子どもの友達（72.2%）、子ども同士遊ぶ（71.5%）、遊び方支援（65.5%）、ふれあうプログラム（64.3%）、情報（64.3%）、しつけ支援（48.3%）、子どもの親以外の関わり（47.9%）、子育て相談（44.7%）、親仲間・友達（44.4%）、他の子を見る・遊ぶ（41.9%）、スタッフと話す（30.5%）は、未就園児の方が多くなっていた。

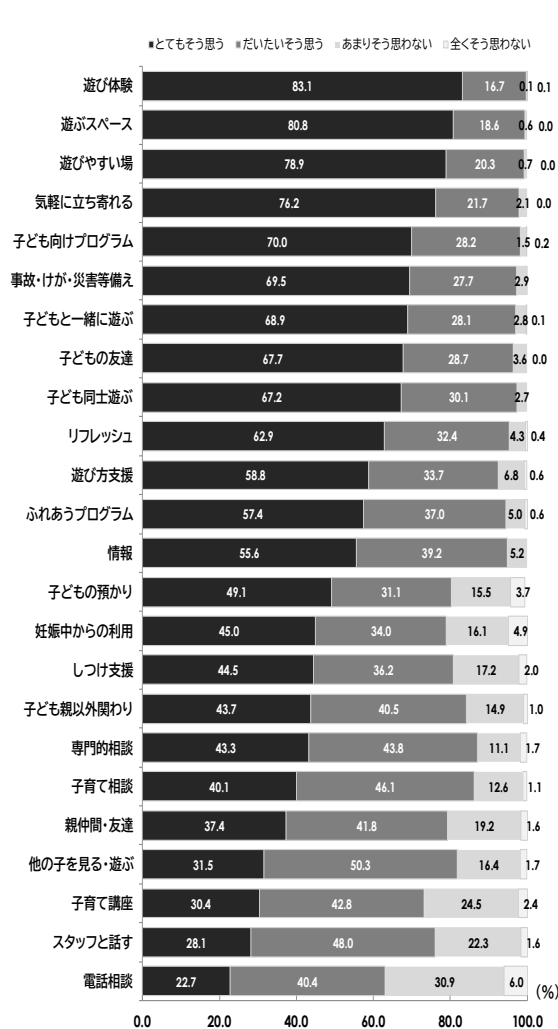


図5-1 居場所ニーズ(就園児)

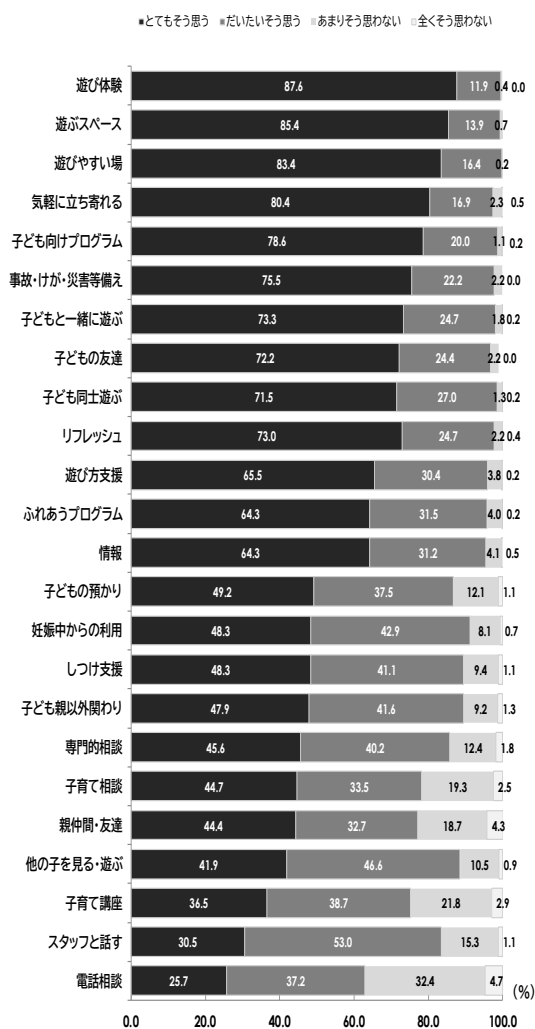


図5-2 居場所ニーズ(未就園児)

未就園児>就園児の項目

遊び体験、遊ぶスペース、子どもと一緒に遊ぶ、子どもの友達、子ども同士遊ぶ、遊び方支援、ふれあうプログラム、情報、しつけ支援、子どもの親以外の関わり、子育て相談、親仲間・友達、他の子を見る・遊ぶ、スタッフと話す (U 検定結果)

2) 就学前の親子の居場所ニーズを構成する因子

24 項目の就学前の親子の居場所ニーズは、因子分析を行った結果、次の 4 つの側面（因子）で構成されていることが明らかになった。ただし、「子どもと一緒に遊ぶ」「リフレッシュ」の 2 つの項目は、この因子には含まれていない。独自の居場所ニーズとして捉えておく必要がある。

子育て相談・支援（第 1 因子）

「子育て相談」「子育て講座」「専門的相談」「電話相談」「情報の提供」「スタッフと話す」「しつけ支援」「遊び方支援」

遊び場・遊びプログラム（第 2 因子）

「新しい遊び体験」「気軽に立ち寄れる」「子ども向けプログラム」「親子のふれあうプログラム」「事故・けが・災害等の備え」「遊ぶスペース」「遊びやすい遊具・場所」

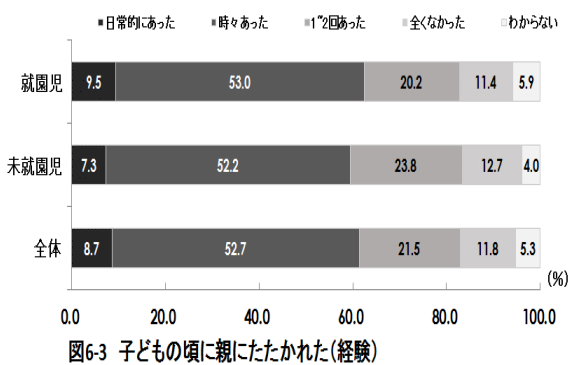
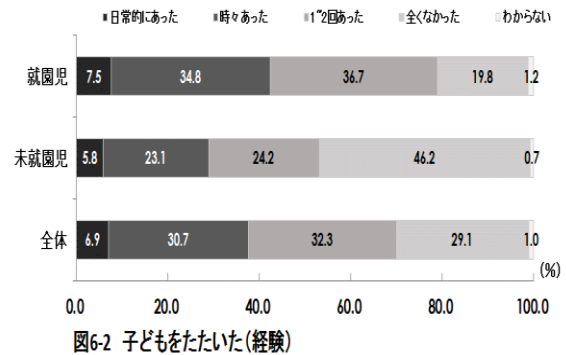
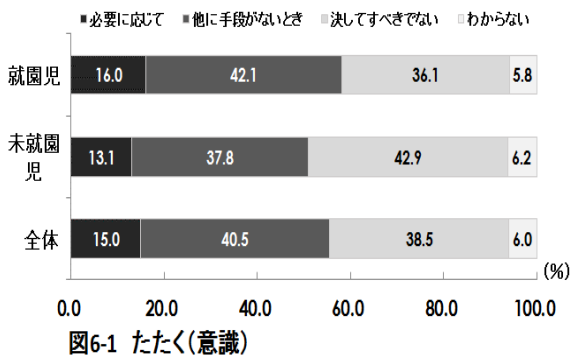
子ども・親子・親同士の交流（第 3 因子）

「子どもの友達ができる」「子ども同士で遊ぶ」「他の子どもの様子を見る・遊ぶ」「親の子育て仲間・友達ができる」「子どもの親以外の大人との関り」

福祉サービス（第 4 因子）

「妊娠中からの利用」「子どもを預かり」

6. 体罰の意識と経験



1. たたく（意識）

肯定：就園児 > 未就園児

2. 子どもをたたいた（経験）

経験有：就園児 > 未就園児

3. 子どもの頃親にたたかれた経験

経験有：差はない

（U検定結果）

図 6-1 は、子どもをたたくことについて、どのように考えるかという質問に対する回答結果である。「必要に応じて」「他に手段がないとき」をあわせると、全体では 55.5% がたたくことについて肯定的であった。就園児の方が、未就園児より肯定的な考えが多くなっていた。

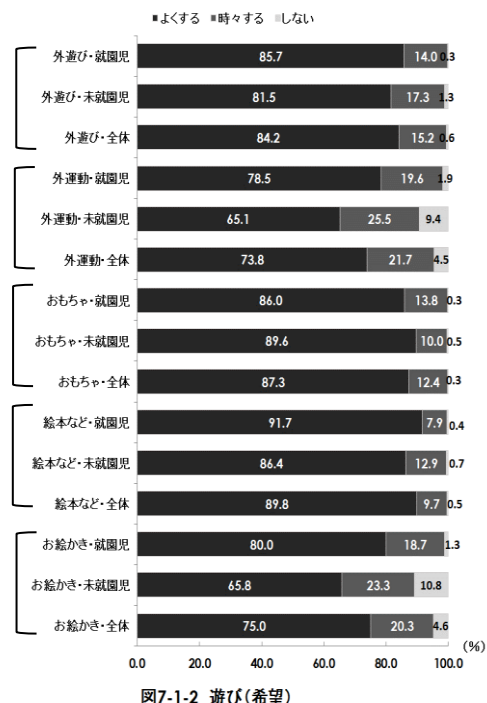
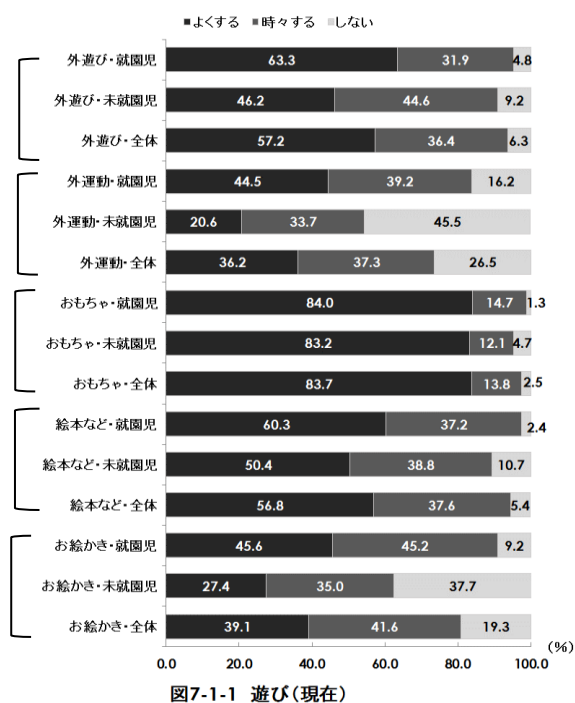
図 6-2 は、過去 3 ヶ月にしつけの一環として子どもをたたいたことがあるかという質問に対する回答結果である。「日常的にあった」「時々あった」「1~2回あった」をあわせると、全体では 69.9%がたたいた経験があった。意識と同様に、経験についても未就園児に比べ就園児の方が多くなっていた。

図 6-3 は、回答者が子どもの頃、親や身近な大人からたたかれたことがあるかについての回答結果である。「日常的にあった」「時々あった」「1~2回あった」をあわせると、全体では 82.9%、就園児では 82.7%、未就園児では 83.3%であり、就園児と未就園児との間に有意差は認められなかった。

なお、「子どもをたたく（意識）」と「子どもをたたいた（経験）」の関連性をみるために、スピアマンの順位相関係数を算出した結果、 $\rho = 0.323$ ($p < .01$) で低い正の相関があった。また、「子どもをたたいた（経験）」と「子どもの頃親にたたかれた（経験）」のスピアマンの順位相関係数は、 $\rho = 0.295$ ($p < .01$) で低い正の相関があった。このことから、子どもをたたくことを肯定している人は、子どもをたたく傾向があること、また、子どもの時にたたかれた経験のある人は、自分の子どもをたたく傾向があることが推察された。

7. 子どもの生活（遊び・メディア）

1) 子どもの遊び



<1. 現在> 就園児>未就園児の項目
外遊び、外運動、絵本など、お絵かき
(U 検定結果)

<2. 希望> 就園児>未就園児の項目
外遊び、外運動、絵本など、お絵かき
(U 検定結果)

図 7-1-1 からわかるように、現在の遊びで「よくする」が最も多いのは、おもちゃ (83.7%) であり、就園児 (84.0%)、未就園児 (83.2%) のいずれも多くなっていた (無回答を除く)。遊びの希望については、図 7-1-2 からわかるように、いずれの遊びも現在の遊びより多くなっていた (Wilcoxon の符号付き順位検定の結果)。就園児と未就園児を比べると、おもちゃ以外の遊びにつ

いては、現在、希望とも就園児の方が多くなっていた。

2) 子どもとメディア

図 7-2-1 からわかるように、現在「よくする」と答えたメディアで最も多かったのは、テレビ (64.2%) であり、就園児と未就園児を比べると音楽以外はいずれも就園児の方が多くなっていた。メディアの希望については、スマートフォンや据置型ゲームについては、就園児に比べ、未就園児の希望が少なくなっていた (図 7-2-2)。また、現在と比較をすると音楽や据置型ゲーム以外のほとんどのメディアの項目は、現在より希望の方が少なくなっていた (Wilcoxon の符号付き順位検定の結果^{注)})。

注) メディアの現在と希望の Wilcoxon の符号付き順位検定の結果

- <就園児>据置型ゲーム：有意差無、音楽：現在<希望、その他のメディア項目：現在>希望
- <未就園児>携帯型ゲーム：有意差無、音楽と据置型ゲーム：現在<希望、その他のメディア項目：現在>希望
- <全体>音楽と据置型ゲーム：現在<希望、その他のメディア項目：現在>希望

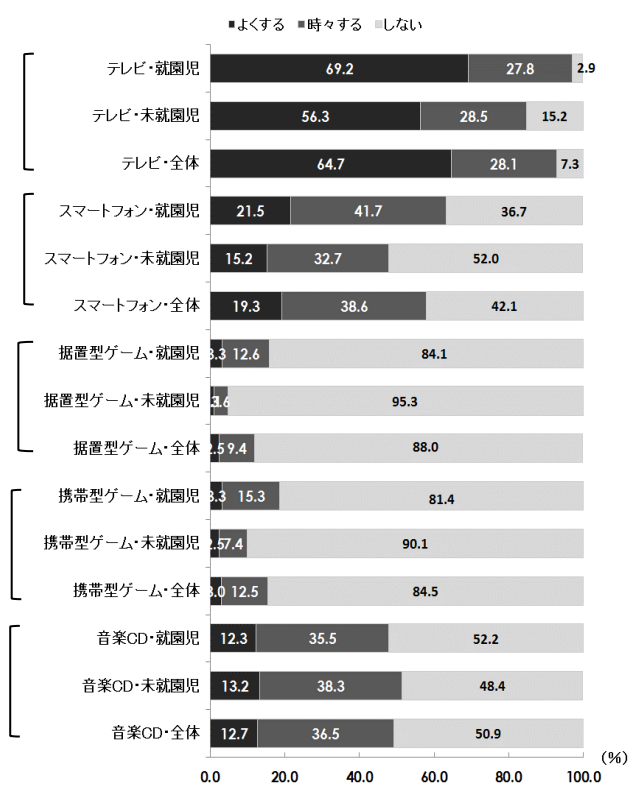


図7-2-1 メディア(現在)

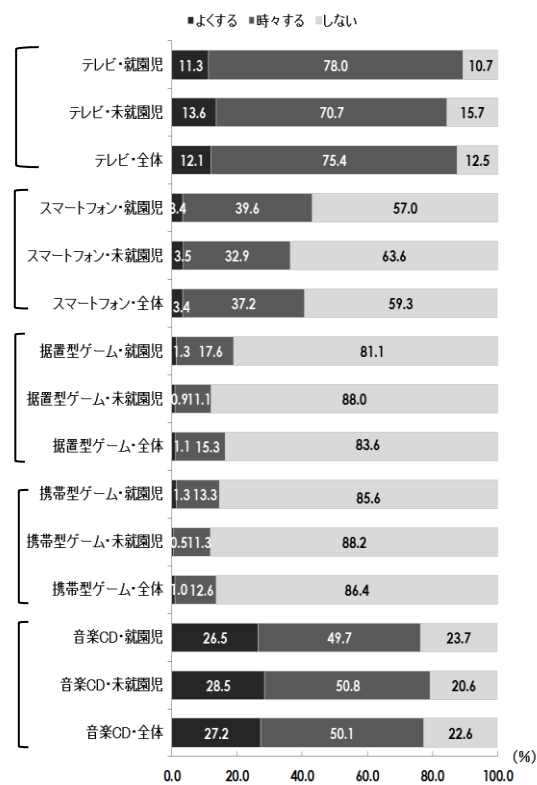


図7-2-2 メディア(希望)

<1. 現在> 就園児>未就園児の項目

テレビ、スマートフォン、据置型ゲーム
携帯型ゲーム (U検定結果)

<2. 希望> 就園児>未就園児の項目

スマートフォン、据置型ゲーム
(U検定結果)

8. 岡山市の就学前親子の居場所の認知・利用・希望

図 8-1～図 8-3 は、岡山市の就学前親子の居場所の認知、利用、希望について、就園児、未就園児、全体を比較したものである。図 8-1 の居場所の認知については、いずれも児童館、子育て支援センター、公民館が多くなっていた。子育て広場やプレーパークは、その他の項目と比べると、認知している人が少なかったが、子育て広場は就園児に比べて未就園児の方が多く、プレーパークは未就園児に比べて就園児の方が多くなっていた。図 8-2 の居場所の利用についてみると、児童館の利用が多く、特に未就園児の利用が 35.3%と多くなっていた。U 検定結果によると、公民館とプレーパークの利用については、就園児と未就園児では有意差はなかったが、他の居場所については、いずれも就園児に比べて未就園児の利用が多くなっていた。図 8-3 の居場所の希望をみると、プレーパークが 70.5%と最も多く、就園児と未就園児を比べると、いずれの項目も未就園児が多いことが確認できた。

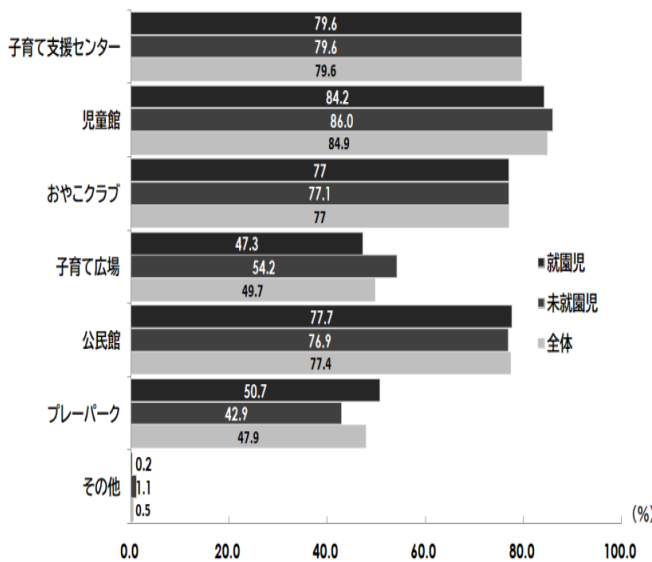


図 8-1 居場所認知

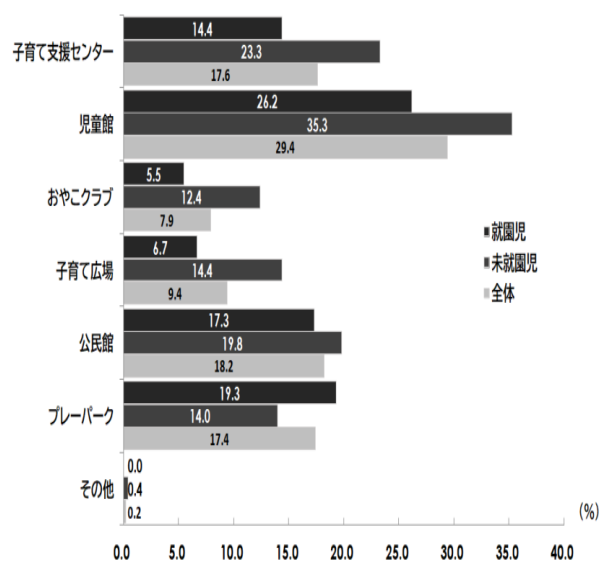


図 8-2 居場所利用

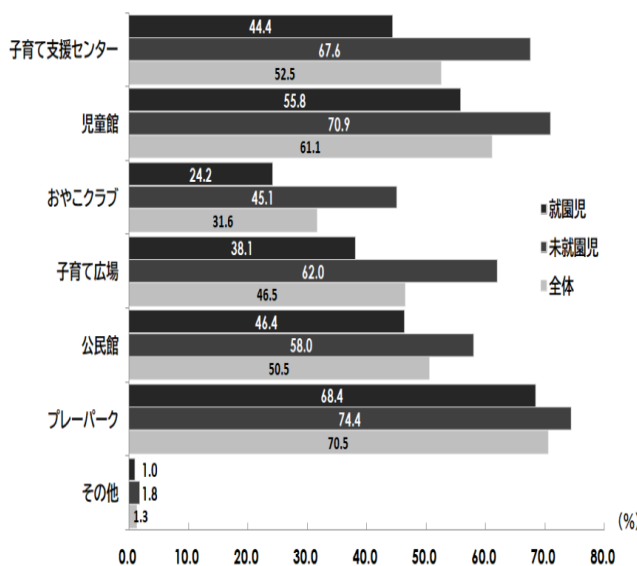


図 8-3 居場所希望

<1. 認知>

未就園児>就園児の項目：子育て広場

就園児>未就園児の項目：プレーパーク

<2. 利用>

未就園児>就園児の項目

子育て支援センター、児童館、おやこクラブ、子育て広場

<3. 希望>

未就園児>就園児の項目

子育て支援センター、児童館、おやこクラブ、子育て広場、公民館、プレーパーク
(U 検定結果)

9. 就学前親子の居場所に関する自由記述

1) 就学前親子の居場所に関する希望

「問 19-25 就学前親子の居場所で何をしたいですか。その他に希望することがあればお書きください。」(以下、「親子の居場所に関する希望」と略す) から得られた自由記述は、全 80 件(就園児 52 件、未就園児 28 件)であった。これらの記述を形態素解析により分析した結果、出現回数が多かった語(上位 10 語)は表 9-1 の通りであった。この表が示すように、共通して出現回数が多かった語は、「思う」、「子ども」、「場所」、「遊べる」、「施設」、「雨の日」であり、子どもの遊ぶ場所に関する記述が多く見受けられた。

表9-1 親子の居場所に関する希望についての記述で出現回数が多かった語(上位10語)(全体と就園状況別)

全体			就園児			未就園児		
順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	子ども	32	1	子ども	25	1	思う	10
2	思う	22	2	思う	12	2	遊べる	8
3	場所	19	2	場所	12	3	子ども	7
4	遊べる	17	4	公園	9	3	場所	7
5	施設	12	4	行く	9	5	雨の日	4
6	公園	11	4	遊べる	9	5	行ける	4
6	行く	11	4	施設	8	5	施設	4
6	人	11	8	人	8	5	利用	4
9	雨の日	10	9	体	7	5	分かる	4
9	体	10	10	雨の日	6	10	イベント	3

※出現回数が多かった語は、KH Coder(Ver. 3)における ChaSen の形態素解析を用いて抽出された。また、表中の語は、動詞や形容詞などの活用のある語を基本形に抽出して示した。なお、出現回数の数値は、「回」を示す。

次に、表 9-1 の形態素解析の結果を踏まえて、共起ネットワークを行った(共起ネットワークの図については省略する。図は本報告書を参照のこと)。つながりの深い語として次のようなグループ化がみられた(表 9-2)。

表9-2 親子の居場所に関する希望の共起ネットワーク

対象	語群	用語
全体	体を動かして遊べる場所	「場所」、「体」、「室内」、「遊べる」、「動かす」など
	施設利用	「行く」、「児童館」、「ふれあいセンター」、「参加」、「駐車場」など
	親子の生活	「トイレ」、「母親」、「食事」、「オムツ」、「大変」など
	遊びや他人との関わり合い	「遊び」、「遊具」、「話す」、「相談」、「他」など
就園児	体を動かすこと	「体」、「動かす」、「動く」、「雨の日」など
	異年齢との遊び	「遊び」、「遊具」、「嬉しい」、「他」、「年齢」など
	施設的环境面	「トイレ」、「児童館」、「岡山」、「スタッフ」など
	子どもの預かり	「上の子」、「預る」、「大変」など
妊娠出産による入園	「保育園」、「出産」、「妊娠」など	
未就園児	施設利用や情報	「子連れ」、「助かる」、「行く」、「参加」、「気軽」、「情報」など
	施設や公園	「児童館」、「ふれあいセンター」、「公園」、「作る」など
	体を動かすこと	「雨の日」、「体」、「室内」、「思いっきり」、「動かす」など
	生活	「食事」、「スペース」、「見る」、「トイレ」、「オムツ」など
施設でのイベント	「子ども」、「イベント」、「施設」など	

共起ネットワーク分析では、共通して「体」、「室内」、「動かす」、「雨の日」、「場所」などの語群がみられ、子どもたちが体を動かして遊ぶことができる居場所を求めていることが分かった。実際の文章か

らも、「雨の日に体をたくさん動かせるような場所がほしいです。」「子どもが安心して思いっきり体を動かすことができる場所があるといい。」等の記述が多く見受けられ、子どもの身体活動について関心が高いことも窺がえた。就園児の共起ネットワーク分析では、「遊び」、「嬉しい」、「他」、「年齢」などの語群から異年齢・同年齢と交流できる場所を求めていることが分かった。実際の文章において、「子どもが走り回っても他の子に気を使わなくてもいい広い遊び場がほしい。」「年齢が上がってくると保育園後も遊びたがるが、近所は小学生のお兄ちゃんばかりで遊び相手がいない。近い年齢で遊べる友だちができると嬉しい。」等の記述が見受けられ、異年齢・同年齢と関わるができる遊び、ある程度の広さを確保した場所で過ごせることを希望していることも窺がえた。

未就園児の共起ネットワーク分析では、「食事」、「スペース」、「見る」、「トイレ」、「オムツ」などの語群がみられ、親子で食事をしたり、トイレを利用したりといった生活面での利用も求めていることが見受けられた。実際の文章から、「離乳期に合わせた食事を購入でき、食事スペースがあること。」「自分のトイレ時に子どもを見てもらえること。」等の記述が見受けられ、施設利用時に食事ができて、親子とともに利用しやすいトイレ環境のある場所を希望していることが分かった。

以上のことから、就学前親子の居場所でありたいこと、希望することで求められていることは、就園児の親子に関しては、体を動かして遊べる場所、異年齢と交流できる遊び、ある程度の広さを確保した場所、また、未就園児の親子に関しては、食事やトイレといった生活面の支援がある場所であることが分かった。そのため、親子の居場所を運営する場合には、これらのことを念頭に置いて、親子の居場所づくりを整えていくことが必要である。

2) 就学前親子の居場所に関する意見

「就学前親子の居場所などについてご意見等ありましたら自由にお書きください。」(以下、「親子の居場所に関する意見」と略す) から得られた自由記述は、全 270 件(就園児 182 件、未就園児 88 件)であった。これらの記述を形態素解析により分析した結果、出現回数が多かった語(上位 10 語)は表 9-3 の通りであった。この表が示すように、共通して出現回数が多かった語は、「子ども」、「思う」、「利用」、「公園」、「行く」、「遊ぶ」、「多い」であり、子どもの遊び場の利用に関する記述が多く見受けられた。

表9-3 親子の居場所に関する意見について出現回数が多かった語(上位10語) (全体と就園状況別)

全体			就園児			未就園児		
順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	子ども	164	1	思う	117	1	子ども	49
2	思う	163	2	子ども	115	2	思う	46
3	利用	108	3	公園	74	3	利用	39
4	公園	99	4	場所	69	4	行く	27
5	場所	88	4	利用	69	5	公園	25
6	行く	82	6	行く	55	6	多い	21
7	遊ぶ	67	7	遊ぶ	47	7	児童館	20
8	多い	60	8	保育園	43	7	遊ぶ	20
9	遊べる	58	9	遊べる	40	9	感じる	19
10	保育園	56	10	多い	39	9	参加	19

※出現回数が多かった語は、KH Coder(Ver. 3)における ChaSen の形態素解析を用いて抽出された。また、表中の語は、動詞や形容詞などの活用のある語を基本形に抽出して示した。なお、出現回数の数値は、「回」を示す。

次に、表 9-3 の形態素解析の結果を踏まえて、共起ネットワークを行った。(共起ネットワークの図については省略する。図は本報告書を参照のこと)。つながりの深い語として次のようなグループ化が

みられた（表 9-4）。

表9-4 親子の居場所に関する意見の共起ネットワーク

対象	語群	用語
全体	施設利用者	「思う」、「子ども」、「多い」、「利用」、「行く」、「場所」など
	公園の遊びや遊具	「公園」、「遊具」、「遊ぶ」、「使用」など
	仕事と平日休日	「日曜」、「土曜」、「仕事」、「平日」、「休日」など
	親子でのイベント参加	「参加」、「親子」、「イベント」など
就園児	体を動かして遊べる場所	「子ども」、「思う」、「場所」、「遊べる」、「公園」など
	曜日	「土曜」、「日曜」、「平日」など
	イベント参加情報	「イベント」、「情報」、「参加」など
未就園児	子育てで利用する遊び場	「子ども」、「思う」、「遊ぶ」、「年齢」、「多い」、「子育て」、「利用」など
	公園の遊び環境	「公園」、「遊べる」、「遊具」、「近く」、「場所」、「使用」など
	保育園の入園	「保育園」、「入れる(ない)」、「住む」、「困る」など
	親子のイベント	「参加」、「イベント」、「親子」、「母親」、「遊ばせる」など
	岡山市の子育て広場	「岡山市」、「広場」、「親」、「見る」など
	幼稚園の保育年数	「幼稚園」、「年」、「保育」など

共起ネットワーク分析では共通して、「公園」、「遊べる」、「場所」などの語群がみられ、公園で遊べる場所についての記述が多く見受けられた。実際の文章からは、「雨の日でも体を動かせる場所が近くにあると助かります。」、「お金をかけず子ども同士を遊ばせたり、親同士の交流を増やせたりする場所がほしい。」といった記述や「近くに公園や広場など子どもが遊べる場所がほしい。」、「近所の公園の遊具が使用禁止で困っています。」、「外で遊ぶ場合にも遊具が閉鎖されていることもある。公園の管理に力を入れてほしい。」等の近所に公園を求めている記述、現在の公園が子どもたちにとって思うように遊べる場所ではなくて困っている記述も一定数あることも分かった。

就園児の共起ネットワーク分析では、「土曜」、「日曜」、「平日」などの語群がみられ、休日と平日の居場所利用に関する記述が見受けられた。実際の文章から、「平日は仕事があるため、日曜祝日も利用できる場があれば利用したい。」、「親子で参加するクッキングや遊びが平日に多いけど、土曜日曜休みなので大変だと思いますが、土曜日曜も増やしていただきたいです。」、「おやこクラブは平日の昼のみなので利用しにくい。」、「平日、土曜日曜祝も含めて、屋内で安全に走り回れたり、遊具がある所が少ない。」、「平日幼稚園から帰って、短時間で遊ぶには公園が遠すぎて不便である。」、「平日、子どもは保育園、私も仕事なので、土曜日曜に利用できる施設などがあれば利用したいです。」等の記述がみられた。このことから、平日に仕事をしている人は土曜日・日曜日に利用できる場所を求めていることが分かった。また、子どもが遊べて親子で体験できる遊びプログラムのある居場所を求めていることが窺える。加えて、「イベント」、「参加」、「情報」などの語群がみられ、イベント参加情報に関する記述が見受けられた。実際の文章からは、「親子イベントの情報を Twitter などの SNS でもっと知ってほしい。」、「なかなか外に出るのも大変で市から「イベント情報」や「遊べる場所」など手紙で送ってくれるとありがたいかなと思います。」、「いろんな場所があるのはいいが、車で行けるのかなどの情報ももう少しほしい。」、「育休中に、何度か児童センターに行ったが、行きにくい雰囲気だった。情報もあまりないので行くのに勇気がある。」等の記述がみられた。このことから、居場所の運営側から発信している情報を利用者はうまく収集できていないため、施設利用に繋がりにくいことが窺がえた。運営側は

広報の手法を利用者に寄り添って発信できるように検討していく必要があると考える。

未就園児の共起ネットワーク分析では、「子ども」、「思う」、「遊ぶ」、「多い」、「子育て」などの語群がみられ、子どもの遊びや子育てに関する記述が見受けられた。実際の文章からは、「子どもが外でのびのびと遊ぶことができる環境がもう少し多くあればと思う。」、「歩かない子ども（乳幼児）を転がして遊ばすスペースを開放してほしい。」、「月齢・年齢に応じた安心して遊ばせることができる気軽に行ける距離にある場所が、とても少ないと思います。」、「夫婦と子どもで参加できるものがあると嬉しい。イメージ的にこのような場を利用するのは、母親と子がメインなものが多いので、日ごろから子育てに参加している夫も一緒に行きたい。」等の子どもの年齢に応じて遊ぶことができる場所の確保を必要としている記述、母親のみならず父親も参加できる子育て講座を希望している記述がみられた。加えて、「今回のアンケートを機に初めて知った子育て支援サービスが多かったので、全子育て世帯へ認知してもらえるようなシステムを構築していただきたいです。」といった記述もみられ、本調査を実施したことにより改めて子育て支援サービスを知るきっかけとなった回答者がいたことも分かった。このようなことから、年齢に応じて遊べる場所の確保、両親が共に参加できる子育て講座の検討、子育て支援サービスの情報発信を拡充していくことなどを考えていかなければならない。また、「保育園」、「入れる（ない）」、「住む」、「困る」などの語群がみられ、保育園の入園に関しての記述が見受けられた。実際の文章からは、「働きたいが保育園に入れず面接等を受けることすらできない。」、「とにかく保育園に入れるようにしてほしい。」、「保育園に入れず本当に困っています。」等の記述がみられた。未就園児の親の中には、保育園に入園できないため働きたくても働けない状況を抱えている者もいることが分かった。そのような子育て中の不安を解消するための支援ができるような就学前親子の居場所を整えることも必要ではないかと考える。

以上のことから、就学前親子の居場所に関する意見については、子どもが体を動かして遊べる場所、公園の使用状況に関すること、年齢に応じて遊べる場所の確保、両親が共に参加できる子育て講座、子育て支援サービスの情報発信の拡充、保育園の入園に関する記述等が確認できた。これらの結果を踏まえて、就学前親子の居場所づくりに取り組むことが必要である。

Ⅲ. まとめと今後の課題

1. 就学前の子育て家庭の約 35%が未就園であり、家庭で子育てをしている親子を対象にした居場所が必要である。また、回答者の子どもについては、約 30%が一人っ子であり、核家族が多いので、子育ての知識・技術をわかりやすく伝えていくことが課題となる。居住年数が 3 年未満と答えた人が約 40%あり、地域のつながりも希薄だと思われる。子育て家庭の仲間づくり（子育てネットワーク）を行う必要がある。
2. 家族の健康については、回答者自身、子ども、子どものきょうだい、配偶者のいずれも健康であると回答していた。ただし、27 人（3.0%）が、子どもに障害があると答えており、障害児への支援も考えていく必要がある。また、ひとり親家庭が 4.0%、経済状況が苦しいと答えた人は 12.0%あり、子どもの貧困問題への対応も考えていかなければならない。
3. 携帯電話から子育てに関する知識・情報を得ている人が多く、情報の提供方法として携帯電話を活用することが有効であると考えられる。また、特に未就園児において、子育てのサポートをしてくれる人は

パートナーや自分の父母が多くなっていた。父親や祖父母を対象とした子育て支援プログラムの提供も必要であると考え。

4. 気がかりなこと・心配ごと（子育て不安を含む）は、就園児と未就園児には違いがあり、また、子育て不安に関する項目は、就園児より未就園児の方が多くなっていた。子どもの年齢や属性に合わせた支援プログラム（乳児対象のプログラム、平日の午後等に就園児を対象にしたプログラム）や子育て講座（気がかりなこと等に関する情報提供）の実施の必要性が確認できた。
5. 子どもをたたくことを肯定している人は、子どもをたたく傾向があること、また、子どもの時にたたかれた経験のある人は、自分の子どもをたたく傾向があることが推察された。2019年の児童虐待防止法改正（2020年4月より施行）により、体罰の禁止が法定化された。たたかない子育ての大切さと方法を伝えていくことが必要である。
6. 親子の居場所ニーズについては、家ではできない遊びや新しい遊びを体験でき、体を動かして遊ぶスペースがあり、子どもが遊びやすいように環境設定されている場所、気軽に立ち寄れる居場所が求められていることがわかった。特に未就園児の方が、多様なニーズがあることが明らかになった。
7. 子どもの遊びについて、おもちゃ以外の遊びについては、現在、希望ともに就園児の方が多かった。また、いずれの項目も希望の方が多く、子どもをしっかりと遊ばせたいという思いがあることが分かった。メディアについては、ほとんどの項目で未就園児より就園児の方が多かった。年齢が上がるにつれて様々なメディアに触れる機会が多くなると考える。また、「よくする」を見ると、音楽を除くほとんどのメディアについては、現在の利用より利用希望の方が少なくなっており、メディアとの適度な関わりを求めていることが分かった。子どもの発達段階に応じた遊びの提供や、メディアとの関わりについて情報提供が必要であると考え。
8. 岡山市が実施している親子の居場所に関する事業については、認知度は高いが、利用につながっていない状況がわかった。また、未就園児は、就園児に比べて、各事業への利用希望が高いことも明らかになった。特に、地域子育て支援センター、児童館、子育て広場の希望が多いことから、これらの事業の充実を図るとともに、認知と利用のギャップを埋めるために、「利用しやすい居場所」についての検証が必要である。また、プレーパークについては、就園児と未就園児のいずれも利用希望が高くなっていることから、屋外の遊び環境についても考えていく必要がある。
9. 就学前親子の居場所でしたいこと、希望することは、体を動かして遊べる場所、異年齢と交流できる遊び、ある程度の広さを確保した場所、食事やトイレといった生活面の支援がある場所であることが分かった。また、就学前親子の居場所への意見としては、子どもが体を動かして遊べる場所、公園の使用状況に関すること、年齢に応じて遊べる場所の確保、両親が共に参加できる子育て講座、子育て支援サービスの情報発信の拡充、保育園の入園に関する記述等が確認できた。これらの結果を踏まえて、就学前親子の居場所づくりに取り組むことが必要である。

今後は、親子が気軽に集い、親同士の相互交流、子ども同士が異年齢の中で遊べる居場所を運営する中で、今回の調査結果を踏まえた支援内容、対象者（保護者、子ども）との関わり方を考え、実践プログラムの開発を行うとともに、利用者の主体性を尊重し、親子が安全に安心して過ごせる居場所についての検証を行いたい。